

9月10日は「下水道の日」です

問合せ 市下水道施設課 (画24-5131)

下水道の日とは

「下水道の日」は61(昭和36)年、整備の遅れていた下水道の全国的な普及を目的に「全国下水道促進デー」として始まりました。
その後、01(平成13)年には、旧下水道法が制定されてから100年を迎えたことと、21世紀のスタートの年に当たることから、より親しみのある名称として「下水道の日」に変更されました。

なぜ9月10日なの？

9月10日頃は台風が多いことから、「大雨に注意」と「雨水の排除」の意味から、9月10日を「下水道の日」と決めただよ！



下水道の役割



●快適な生活をつくる

家庭から出る汚水を下水処理場に集めることで、汚水が家にたまらず、害虫や悪臭の発生を防ぎ、衛生的で快適なまちを保ちます。

●まちを浸水から守る

降った雨水をすばやく下水道に集めて川や海に流すことで、道路の冠水や住宅への浸水などを防ぎます。

●川や海をきれいに保つ

汚水を処理し、きれいにした水を川や海などに戻すことで、水質を保全します。

春採湖を守る下水道

春採湖は「ヒブナ」の生息する湖として国の天然記念物に指定されています。
しかし、昭和40年代、湖周辺の宅地化に伴い生活排水が流入し、湖の水質が急激に悪化したことにより、湖沼水質全国ワースト5に名を連ねる汚れた湖となってしまいました。このような中、下水道の整備を進めた結果、湖の水環境が大きく改善し、市民や付近住民などの憩いの場である今日の春採湖となっています。



春採湖とヒブナ

マリモを守る下水道

阿寒湖畔では市街地の開発などにより、流入する汚水の影響で汚染が進行し、特別天然記念物である「阿寒湖のマリモ」の生息水域まで広まりつつありました。
阿寒湖やマリモを守るため、下水道を整備したことにより、湖の水質が改善されました。



阿寒湖とマリモ



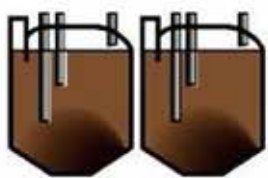
エネルギーや資源の有効活用

下水処理場では、汚水をきれいにする過程で汚泥が発生します。その汚泥から肥料を作ったり、汚泥処理の過程で発生したバイオガスを利用して発電を行うなど、エネルギーや資源を作りだしています。

ガス発電事業を始めました！

22(令和4)年4月から大楽毛下水終末処理場で、汚泥処理の過程で発生するガスを使って、発電事業を始めました。

地球温暖化防止！



消化槽
●微生物が汚泥を分解するときにガスが発生



ガスタンク
●発生したガスをためる

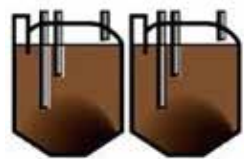


消化ガス発電設備
●ガスを燃料に発電

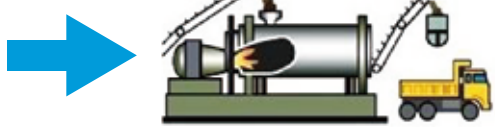


汚泥は全て肥料へ！

市では下水処理の過程で発生する汚泥の全量活用も行っていきます。



消化槽 ●下水処理で発生した汚泥



乾燥機 ●汚泥を乾燥させて水分を飛ばす

資源の循環利用！

汚泥肥料散布



「汚泥肥料」を配布します！

配布日時 9月5日(月)～9日(金)午前9時～午後5時
古川終末処理場で発生した汚泥から作られた汚泥肥料を上記期間に、無料配布します(1人5袋まで)。
ご希望の方は古川終末処理場(古川町7-4)までお越しください。



汚泥肥料の効果はこんなにすごい！

肥料散布直後



2週間後



肥料をまいた部分の効果は一目瞭然！

※赤枠は肥料散布箇所